

順位	氏名（議席）	発言の要旨
16	佐藤 菊乃（5）	<p>1. シニアの居場所づくりと活躍支援について</p> <p>全国の警察で取り扱った検死対象約20万体のうち、独り暮らしの在宅死は約4割の7万6000体で、年代別では65歳以上の高齢者が8割を占めたと警察庁が2025年4月に発表した。これは、人との交流はあるものの、急な体調変化などにより誰にもみとられずに亡くなる孤独死や、死後8日以上経過して発見され、生前に社会的に孤立していたとみられる孤立死についての統計値である。</p> <p>この数字を聞くと、自分も誰にもみとられずに1人で死んでしまうのではないかと年齢を重ねるにつれ大きくなる不安にもうなずける。</p> <p>本市に暮らすシニアたちに孤独や孤立を感じさせることなく、生きる支援をいかに提供できるかは、我々が常に心を寄せなくてはならない課題の一つだと考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市における孤独や孤立に関する施策について、現状はいかがか。</p> <p>(2) 生きるための支援の1つであるシニアの居場所として、日常的かつ継続的に利用されてきた社会福祉センター広見荘が令和7年3月末で閉館したことにより、市内広域から日々、通っていた利用者の市民サービスの低下につながっていると思われるが、当該施設の利用者に対して、どのような対応や代替案の提供がなされたか。</p> <p>(3) シニアの移動を支える施策の1つとして運転免許証の自主返納後に、本市では市内公共交通共通回数券を交付しているが、この回数券を利用することでプラスアルファの効果を生み出すアイデアや、対象者の拡大など今後の展開を考えているか。</p> <p>(4) 何かの役に立ちたいと就労や軽作業などを行う意欲のあるデイサービスなどを利用する介護度が低い方に、個々が期待する活躍を支援できる就労や軽作業の機会及び就労場所の提供が必要だと考えるがいかがか。</p> <p>2. 悪質電話対策機器購入費補助金の効果の検証と波及について</p> <p>静岡県警によると県内で発生した特殊詐欺の件数は、本年に入って既に140件を超え、その被害額は約8億4000万円に上り、昨年同時期を大幅に超す勢いとのことである。</p> <p>本市では平成29年度から悪質電話対策機器購入費補助金の制度を創設し、現在も対策機器購入に当たり、1万円を上限として補助している。</p> <p>市ウェブサイトによると、導入した半数の方が、悪質電話がかかかってこなくなった、安心して電話に出られるようになったとのことであり、その他の声として、冷静に電話の対応ができるようになるなど意識の変化があったと紹介されており、対策機器の有効性が確認できたと記されている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 悪質電話対策機器購入費補助金の補助件数等の実績はいかがか。</p> <p>(2) 特殊詐欺の手口は巧妙化しているが、特にシニア世代に対する今後の課題や改善策はあるか。</p> <p>(3) 録音することにより市民が感じた安心感を、カスタマーハラスメント対策等として、市役所・学校・保育園も含め全庁的に波及させたいと考えるがいかがか。</p>